

標津町防犯ボランティア組織レッドシャドー（北海道）

みなさん、こんにちは。私は、北海道は東の果て、北方領土を一望する町、標津町から参りました。私は標津町防犯ボランティア組織レッドシャドー隊長、青木 47 歳。そして、私、副会長をしております吉田と申します。41 歳でございます。こんないかつい姿の私たちではございますが、どうぞひとつよろしくお願いたします。

「ありがとうレッドシャドー」というタイトルでございますが、これは私たちの願いでございます。いつの日か「ありがとうレッドシャドー」と言われるような組織になりたいと思って常日頃がんばっております。



団体概要

さて、レッドシャドーが活動する町。朝夕に国後島を臨む標津町。国後島までの距離がわずか 24 キロでございます。町から島がはっきり見えます。北方領土がすぐ目の前にある町でございます。この町の人口がわずか 5,647 名、そのうちレッドシャドーの隊員が 58 名おります。人口の 1 %が防犯パトロール隊の町でございます。

なぜ、私たちの町でこのような防犯組織が誕生したのでしょうか。平成 14 年、まさかうちの町でこんな事件が起きるとは思いもしなかった、いわゆる親父狩りという事件が起きました。そのうち 1 名は全治 2 週間のケガを負いました。被害者は、実は私どもの役場の OB でございます。事件が発生したのですが、警察に届出もしなかったということで、地元の中標津警察署では全くノーマークの事件でございました。

この事件の後、うちの町では、夜な夜な出歩くのを避け出しました。この事態を受け、最初はたった一人で平和維持活動を始めました。

これを見ていた標津町役場の若者たちが参加協力し、平成 14 年 12 月 8 日に 6 名の自主防犯パトロール隊、標津町防犯ボランティア組織レッドシャドーが結成されました。



活動内容

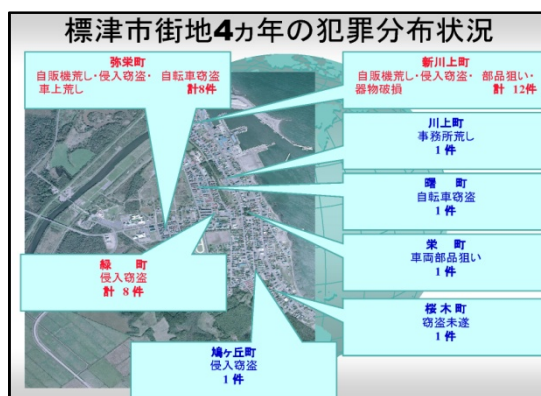
平成 17 年 3 月には警察本部長より青色回転灯設置の自主防犯パトロール隊の証明書を受けまして、そこからパトロールを開始いたしました。

まず、私たちが着手したのは防犯マップの作成ということで、平成 20 年から 23 年の犯罪の発生状況を研究しました。防犯マップ作成のメリットといたしましては、やはり地区別の犯罪分析と予防対策ができることや犯罪の分布状況が目に見えることです。そして、このマップを使って町内会別の犯罪発生状況や危険箇所を分析し、今後の予防対策を立て、住民の共通認識により地域一体化の防犯体制の確立を目指してまいりました。

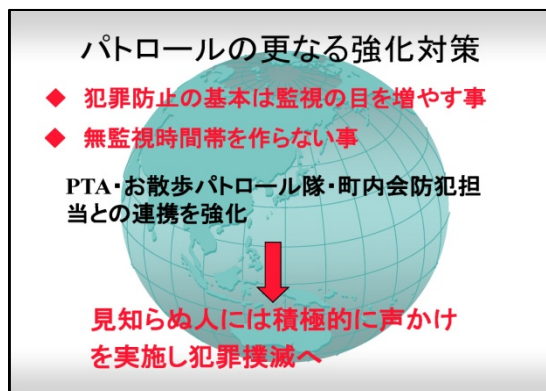
実はうちの町、こないかつい姿のパトロール隊がいるのですが、あまり事件はありません。ですが、4 か年の犯罪発生状況の分布を見てみますと、やはり地区によって非常に犯罪件数が多いところがあります。少ないながらもごく一部にすごく集中しています。これは地形的に犯行後の逃走ルートが犯人に都合が良いのです。あるいは、近くに廃止された J R の路線の防風林帯があったり、非常に逃げやすい部分があったり、そんなところが実は非常に事件が多いのです。このような情報を連合町内会の総会や地域の防犯担当者会議などに出席し、報告をさせていただきました。子どもたちの下校時刻の警戒ポイントというのも研究し、地域の防犯会議などに報告させていただいております。

防犯マップによる犯罪発生分布状況から児童の安全確保や夜間パトロール、徒歩パトロール、空き家の監視区域など、状況に合ったパトロールを研究、実施してまいりました。パトロール体制の更なる強化としては、犯罪防止の基本である監視の目を増やし、無監視時間帯を作らないことを重点として、地域の P T A の皆様やお散歩パトロール隊、そして町内の防犯担当者との連携を強化しながら、見知らぬ人には積極的に声をかけることといたしました。犯罪のために下見に来たり、犯罪をしようとして町に入ってきたときに周りから声をかけられるということは、犯罪者としては「今、見られた」、「目撃された」という心理になるようですので、とにかく知らない人には声をかけるようにしました。実は小さい町ですので、ほとんど知っている人ばかりで、知らない人は町外から来た人というのが非常に分かりやすい地域なのです。

ところで、ちょっと極端な話になりますが、地域のゴミステーションはきれいになっていますか。ゴミステーションが散らかっていたり、交通安全や防犯の旗がちぎれたまま、あるいはポールが倒れ

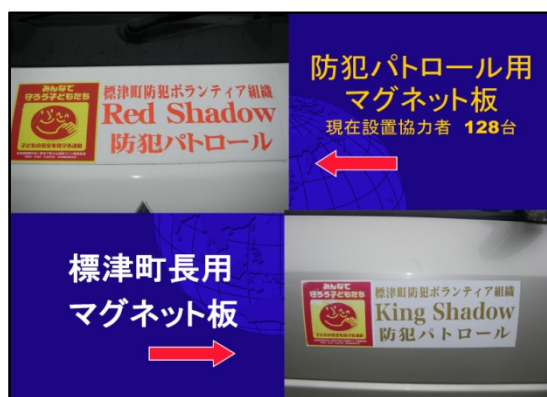


たままになっていたりしていないでしょうか。こういうところは、自分に関心のないことには関わらない地域であり、つまり、犯罪者にとっては仕事のしやすい絶好の地域と言えるのではないのでしょうか。



私たちは、防犯意識の高い町であることをアピールするために防犯パトロールのマグネット板を作って、町内の商店、食堂、ガソリンスタンドなどの配達車両、そして町内の建設会社やその営業の車両などに片っ端から設置を依頼してまいりました。これが町内の防犯意識の向上と犯罪の抑止力を強める効果になってきたのではないかなと思っています。実は、町長の車にもマグネット板を設置していただいておりますが、私たちの仲間が設置する「Red Shadow」と同じ名前じゃ困るだろうということで「King Shadow」と名付けさせていただいております。そのほかに、元町長の車にもマグネット板を設置していただいておりますが、同じ名前じゃ駄目だなということで「Red Emperor」と名付けさせていただいたところ、非常に喜んで今もパトロールをやっていただいております。

また、防犯意識の向上のために、私たちのメンバーに少林寺拳法の師範がおりますので、そのメンバーに協力を得ながら、防犯講演や護身術講習会などもやってまいりました。

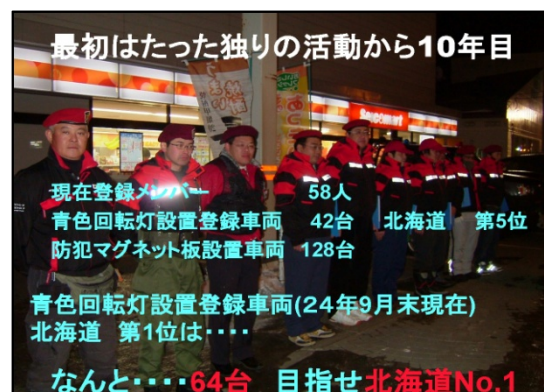


最初はたった一人の活動から始め、10年経った現在ではメンバーが58名になりました。青色回転灯装備車両は42台になりましたが、北海道ではまだ第5位でありますので北海道No.1を目指してがんばりたいと思っています。

皆様も御存知のように、現在、日本国内では数多くの自主防犯パトロール隊が結成され、安全を守る活動に取り組んでおりますが、構成員の高齢化、固定化が活動の活性化の問題になっているのでは

ないかと言われております。警察庁は将来の自主防犯体制を継続するために新しい環境づくりの支援事業を開始いたしました。

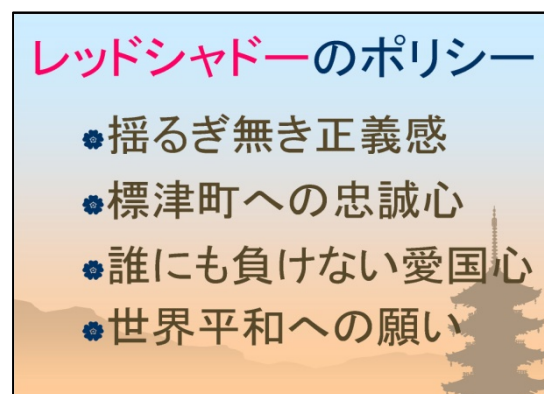
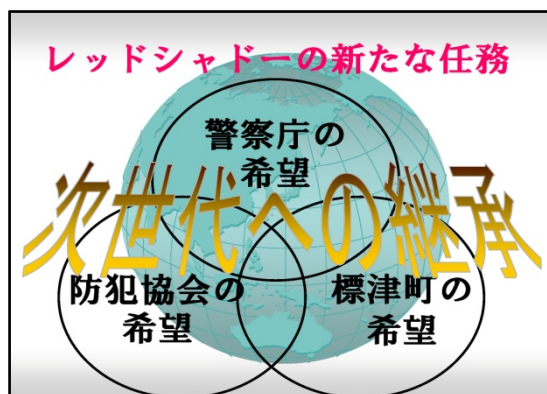
この事業の実施団体として、北海道では私ども仮面の忍者「赤影」、標津町防犯ボランティア組織レッドシャドーが選ばれました。平成23年に私たちは会社員、公務員など現役世代を中心にした平均年齢39歳の「自主防犯パトロール隊」として警察庁から指定され、私たちは反射ベストの胸に刻まれた「警察庁指定防犯ボランティア」の文字に恥じることなく、新しい任務に向かうのであります。



次世代への継承

さて、レッドシャドーの新たな任務とは何でしょうか。警察庁の希望、防犯協会の希望、そして私どもの町の希望の共通点はいったい何でしょうか。やはり次世代への継承。私たちの思いを次の世代、次の世代へと継承していくのが、私たち選ばれた人間に対して与えられた役割ではないでしょうか。

私どもレッドシャドーのポリシーは、「揺るぎなき正義感」、「標津町への忠誠心」、「誰にも負けない愛国心」、「世界平和への願い」でございます。大変、生意気なことを言って申し訳ございませんが、私たちの純粋な心でございます。国境に近い町に住んでいる田舎役場の職員もこういう環境にいると、こんなふうになってしまうのでしょうか。

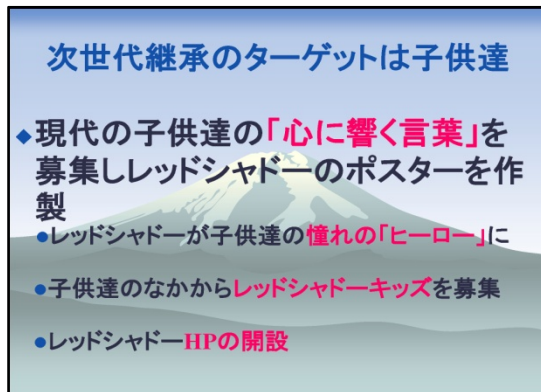


そのポリシーをどのようにして次世代に継承するのか。答えはやはり赤影にあるのではないのでしょうか。私たちのポリシーを育ててきたのは「幼き頃描きし夢」であり、ヒーローアニメから学んだ正義の心です。なぜ、子どもの頃は、このヒーローに憧れたのでしょうか。ヒーローアニメにはやはり心に響く言葉があるのではないのでしょうか。「もって生まれた不死身の体、キャシャーンがやらねば誰かやる」、「赤い仮面は謎の人、どんな顔だか知らないが正義の忍者だ、赤影だ」、「地球を救う使命を帯びて戦う男、燃えるロマン、誰かがこれをやらねばならぬ」といった心に響く言葉です。

次世代継承のターゲットはやはり子どもたちです。現代の子どもたちの心に響く言葉を募集して、私たちレッドシャドーとしてはポスターを製作したらどうかと考えております。これからは、子ども

たちの憧れのヒーローを目指して頑張り、レッドシャドーキッズを募集し、また、レッドシャドーのホームページを開設し、情報発信をしていかなければならないのかなと感じております。

さて、レッドシャドーキッズの募集活動はスタンバイ状態に入りました。現在、地元の小中学校と連携し、協議を開始いたしました。これから地域の子どもたちとレッドシャドーが地域防犯マップを本格的に作り出すという状態です。



私たちの任務はまだまだ終わりません。「圧倒的な存在感こそ抑止力」これが私たちのテーマでございます。新たな脅威として海岸に流れ着いてくる外国不審船対策。私たちの活動は…ついに…。海へ！！！！そして空へ！！地元では就職先を間違えたのではとよく言われます。

先日は陸上自衛隊に国防に関する講演を頼まれました。何か変です。

ですが、ちゃんと平成 21 年度には北海道知事より「北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞」を受賞させていただき、平成 23 年度には、北海道警察本部長から防犯功労賞もいただいております。実は、私、これでも地域では地元の最大イベント「水キラリ」の儀式委員長や標津神社神輿会会長、標津消防団第 1 分団旗手、栄町町内会の副会長などを務める優しい田舎役場の職員でございます。



私たちはレッドシャドー、赤い影。私たちの主な活動時間帯は午後 10 時から午前 3 時。春は若葉マークの暴走行為をする若者に語りかけ、夏は祭り会場で酔っぱらいをなだめ、秋は文化祭準備で遅くなる学生、生徒たちの安全を確保し、冬は歳末警戒パトロールで飲酒運転撲滅を呼びかけております。深夜のパトロールを専門とする自主防犯パトロール隊でございます。

こんな組織ではございますが、これからも標津町民の安全・安心を守るために、そしてこの町の子どもたちの未来のために、いや、我が国の未来のために全力を尽くしてまいりたいと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。本日は本当にありがとうございました。

質疑応答

●質問 隊長、御苦労さまです。現役世代の頑張りに大変感心いたしました。私の知っている団体は、地域で一番活動が活発なのですが、平均年齢は68歳を超えています。ですから平均年齢39歳と大変驚いています。夜間の10時から3時までのパトロール、本来であれば警察が担う時間帯です。その時間帯に積極的に明日の仕事も顧みず、活動されているのは地域住民の皆さんも感謝されていると思います。そこで、平日の昼間帯に活動される隊員の方はいるのでしょうか。

○回答 御指摘のとおり、私たちは勤務中にパトロールはできません。しかし、私たちの58名の中には、元町議会議員さんであるとか、現役の漁協組合長であるとか、そして会社の役員を退いた8名が「レッドシャドー後援会」として参加しております。私たちがパトロールできない昼間帯、特に午後2時から3時頃までの小学校低学年の下校時間帯に、青色回転灯装備車両などで防犯パトロールをしていただいております。

●質問 大変カッコいいユニフォームですが、どなたがデザインしたのですか。

○回答 まず、赤いベレーにつきましては皆さんも御存知かと思いますが、世界中で活動しているガーディアンエンジェルスを参考にしています。各地域に支部があるのではないかと思います。将来的には、やはり、そういった組織と連携を図れるような位置付けを意識しておりますので、赤を基調としたこのベレーを身に付けているのです。最初は、団体名のレッドシャドーの「赤」であり、本来は「影」ということで、あまり目立たないように活動するつもりだったのです。ところがどんどん目立ってしまって、影でなくなってきてしまったのが実情でございます。服装につきましては、私と副隊長の吉田やメンバーみんなとデザインを考えました。使っているものは、近くのホームセンターなどで、比較的安価で販売しているジャンパーなどを大量に買って、背中にマジックテープで名前を付けるような形で、私たちみんなで作っています。